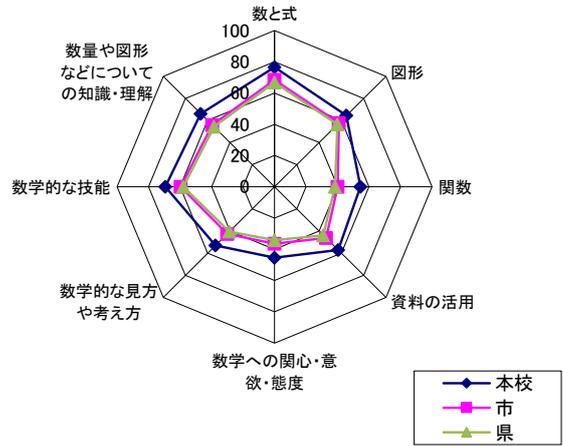


宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	76.5	68.4	66.8
	図形	64.6	57.8	56.5
	関数	54.5	40.1	38.5
	資料の活用	57.2	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	45.3	36.4	34.1
	数学的な見方・考え方	53.0	42.5	40.5
	数学的な技能	69.3	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	66.2	56.0	54.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正答率は県・市を8～10%上回っており、特に「1次方程式」の分野の問題では、ほとんどが県を10%以上回る正答率であり、数学的な技能の定着が十分になされている。 ●しかし、文章から1次方程式を立式する問題では、県の正答率を上回るものの、正答率は低く、1次方程式を活用できない生徒が多いことが課題である。	・数学的な技能がきちんと定着している生徒は多いが、活用する問題につなげることができないため、結果として点数を落としてしまう生徒が見られる。数学的な技能のさらなる向上と、数学的な見方・考え方の力の定着を目指し、授業中の復習に扱う問題を工夫し、問題解決の要点も再確認しながら根気強く指導を続けていきたい。
図形	○全体的な正答率は、県・市をおよそ6～8%上回っており、数学的知識・理解の内容は身に付いているようである。 ●平面図形の作図は県の正答率を上回るものの、正答率が低く、理解が不十分である。また、柱体と錐体の問題については、県を1.6%下回り、体積の求め方が身に付いていない。	・図形の学習に対して意欲を持てるような教材研究を続けるとともに、必要に応じて具体物の操作や、じっくりと腰を据えて考える時間の確保、また、自分の考えを発表する場を設けるなどして、全体的なレベルアップを図っていききたい。
関数	○正答率は県・市を10%以上上回っており、特に設問別では「グラフから式を求めること」が県・市を20%ほど上回るなど、数学的な技能の定着が十分になされているといえる。 ●その反面、式から数学的に説明する問題では、県の正答率を上回るものの、正答率が低く、自らの考えを書いたり説明したりすることに課題が残る。	・この領域も、数学的な技能がきちんと定着している生徒は多いが、活用する問題につなげることができないため、結果として点数を落としてしまう生徒が見られる。関数の利用の問題を再度確認、復習し、数学的な技能のさらなる向上と、数学的な見方・考え方の定着を目指していききたい。
資料の活用	○正答率は県・市を10%以上上回っている。設問別では「相対度数を求めること」の正答率が市と比べて18%ほど上回っており、「数学的な技能」の観点における計算力は非常に定着がなされている。 ●「理由を説明する」記述式の設問で、県の正答率を上回るものの、正答率が低く、自らの考えを書いたり説明したりすることに課題が残る。	・正答率は県・市を上回っているものの、全体の正答率は57.2%と課題の残る領域である。また、自主学习でもおろそかになってしまう領域でもあるので、1か月に1～2回程度の頻度で、この領域における簡単なテストをしたり、自主学习用のプリントを用意したりして、常に復習のできる環境を整えたい。